

4. 配信が強制中止された場合の再送方法

高エラー配信強制中止機能実装以降、配信が強制中止された際の再送方法についてご案内いたします。
エラー情報を取得していることを前提とした方法となります。
配信済みリスト（配信が強制中止されるまでに配信されたリスト）を除外した上で再送します。

(1) STOPDBを利用し、再送する方法

スパイラルでは、自動的にエラーメンテナンスできる機能をご用意しております。
スパイラルを使用して配信リストの管理を行っている場合、配信を行った際に発生した配信エラー情報を自動でデータベースに反映させることができます。
また、配信エラーが発生しているメールアドレスに対しては配信を行わないようにすることができます。

1) STOPDBを作成します。 ●

- ① DBメニューをクリック
- ② STOPDB管理メニューをクリック
- ③ 新規作成ボタンをクリック
- ④ DB名、DBタイトル、キーフィールド、割り当てレコード数を入力
- ⑤ 新規作成ボタンをクリック

2) 通知メールから該当する配信情報を確認いただくか、管理画面のメールメニューのTOPの設定一覧から、ステータスが「高エラー配信強制中止」の配信設定を確認してください。

3) 当該配信の配信ログをダウンロードし、頭文字が『r』のファイルをエクセルなどで展開してください。

- ① DBメニューをクリック
- ② データ登録メニューをクリック
- ③ 登録手続きを開始ボタンをクリック
- ④ 登録（ヘッダー無データの登録）の対象DBで1)で作成したDBを選択
- ⑤ 登録の種類は新規登録を選択
- ⑥ アップロードへ進むボタンをクリック
- ⑦ 貼付けアップロードメニューをクリック
- ⑧ 3)で展開したデータのメールアドレスをすべてコピーし、貼付けアップロード画面に貼付ける
- ⑨ アップロードボタンをクリック
- ⑩ アップロードファイル情報画面にて情報を確認し、続けて登録に進むボタンをクリック
- ⑪ フィールド指定画面にてフィールドとデータを紐付けし、ファイル検査へ進むボタンをクリック
- ⑫ ファイル検査結果画面にて情報を確認し、DB検査へ進むボタンをクリック
- ⑬ DB検査結果画面にて情報を確認し、新規登録するボタンをクリック
- ⑭ 操作を終了して登録手続き一覧に戻るをクリックし、登録が完了

4) 1)で作成したSTOPDBに3)で展開したデータのメールアドレスのデータを登録します。 ●

5) 配信が強制中止された配信設定を呼び出し、STOPDBを適用の上再送します。 ●

- ① メールメニューをクリック
- ② 配信が強制中止された配信の設定ボタンをクリックし、設定を呼び出す
- ③ 配信リスト設定のSTOPデータベースにて、1)で作成したDBを選択
- ④ 件名や文面などが再送したい内容かを確認
- ⑤ 時間指定もしくはすぐに配信したい場合はマニュアルを選択し、スタンバイは「OK」を選択
- ⑥ 試算ボタンをクリックし、配信可能件数が想定している配信数か確認
- ⑦ 新規に予約ボタンをクリック

(2) DBにフラグを立てた上で再送する方法

1) 配信が強制中止されたDBに対して、配信済みリストを除外するための項目（フィールド）を追加します。

2) 通知メールから該当する配信情報を確認いただくか、管理画面のメールメニューのTOPの設定一覧から、ステータスが「高エラー配信強制中止」の配信設定を確認してください。

3) 当該配信の配信ログをダウンロードし、頭文字が『r』のファイルをエクセルなどで展開してください。

4) 配信ログのメールアドレスの列以外すべて削除し、一番最後の列に1を追加してください。

(イメージ)

	A	B	
1	test@aaa.co.jp	1	
2	test@bbb.co.jp	1	
3	test@ccc.co.jp	1	

5) 1) でフィールドを追加したDBのデータを更新します。

6) 配信が強制中止された配信設定を呼び出し、抽出ルールを作成の上再送します。

- ① DBメニューをクリック
- ② 通常DB管理メニューをクリック
- ③ あなたが作成したDB一覧から該当するDB名をクリック
- ④ 設定の変更またはフィールドの追加・削除ボタンをクリック
- ⑤ フィールドタブをクリックし、画面左のフィールドタイプから「ブーリアン」を選択
- ⑥ 末尾に追加ボタンをクリックし画面右のフィールド構成一覧に追加（もしくはダブルクリックにて追加）
- ⑦ 追加したフィールド名を適宜変更する
- ⑧ 保存ボタンをクリック

- ① DBメニューをクリック
- ② データ登録メニューをクリック
- ③ 登録手続きを開始ボタンをクリック
- ④ 登録（ヘッダー無データの登録）の対象DBで1) でフィールドを追加したDBを選択
- ⑤ 登録の種類は更新を選択
- ⑥ アップロードへ進むボタンをクリック
- ⑦ 貼付けアップロードメニューをクリック
- ⑧ 4) で作成したデータ2列分をすべてコピーし、貼付けアップロード画面に貼付ける
- ⑨ アップロードボタンをクリック
- ⑩ アップロードファイル情報画面にて情報を確認し、続けて登録に進むボタンをクリック
- ⑪ フィールド指定画面にてフィールドとデータを紐付ける
更新キー：メールアドレス、1) で追加したブーリアンフィールド：1の列を紐付ける
- ⑫ ファイル検査へ進むボタンをクリック
- ⑬ ファイル検査結果画面にて情報を確認し、DB検査へ進むボタンをクリック
- ⑭ DB検査結果画面にて情報を確認し、更新するボタンをクリック
- ⑮ 操作を終了して登録手続き一覧に戻るをクリックし、更新が完了

- ① メールメニューをクリック
- ② 配信が強制中止された配信の設定ボタンをクリックし、設定を呼び出す
- ③ 配信リスト設定のデータベースの抽出ルールの編集ボタンをクリック
- ④ ■ フィールド毎の抽出ルール設定にて、1) で追加したブーリアンフィールドの編集ボタンをクリック
- ⑤ 抽出ルール名を適宜入力し（例：フラグが立っている人を除外）
- ⑥ ■フラグで抽出は「フラグが立っているもの」を選択し、「以外を抽出する」を選択し、新規作成
- ⑦ ④の画面に戻り、抽出ルール名を入力
- ⑧ ⑧ブーリアンフィールドの抽出ルールで作成したルールが適用されているかを確認
- ⑨ ⑨試算ボタンをクリックの上、想定数かを確認し新規作成ボタンをクリック
- ⑩ ②の画面に戻り、件名や文面などが再送したい内容かを確認
- ⑪ 時間指定もしくはすぐに配信したい場合はマニュアルを選択し、スタンバイは「OK」を選択
- ⑫ 試算ボタンをクリックし、配信可能件数が想定している配信数か確認
- ⑬ 新規に予約ボタンをクリック